

整理番号C-2710S 業務用除菌漂白剤B5500
 アズワン株式会社

作成日： 2016年3月15日
 改訂日：

安全データシート(製品安全データシート)

【1. 化学物質等及び会社情報】

製品名	業務用除菌漂白剤B5500
会社名	アズワン株式会社
住所	〒550-8527 大阪市西区江戸堀2丁目1番27号
電話番号	0120-700-875
FAX番号	0120-700-763
担当部門	カスタマー相談センター
緊急連絡電話番号	0120-700-875

【2. 危険有害性の要約】

化学物質等の分類	腐食性物質
危険性	常温でも徐々に分解して酸素を放出し、酸と接触すると分解して塩素ガスを発生する。 金属類、天然繊維類のほとんどのものを腐食する。
有害性	
皮膚に付着した場合	濃い液に長時間接触すると、水疱、発疹、刺激がみられる。
眼に入った場合	激しい痛みを感じ、結膜、角膜が侵される。やがて角膜が混濁する。直ぐに洗眼しないと虹彩に影響がでる場合もある。 手当が遅れたり、処置が適当でないと視力障害を生じる可能性がある。
飲み込んだ場合	腐食作用による口腔、咽頭、食道、胃粘膜の障害に伴う痛みや刺激が見られる。咽頭、声門、喉頭の浮腫により喘音を発し、胃刺激による悪心や嘔吐が生ずる。呼吸器、胃腸に重度の障害を引き起こす。
酸と接触して発生した塩素ガスが発生した場合	皮膚に接触すると炎症を起こす。また、特に密閉した室内で塩素ガスを多量に吸入すると死亡することもありうる。
ミストを吸入した場合	鼻、咽喉、気管支、肺、気道粘膜を刺激し、しわがれ声、激しい咳、咽喉部の灼熱感、疼痛を生じる。

【3. 組成、成分情報】

単一製品、混合物の区別	混合物
成分	次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度 6.0～7.0%、工場出荷時） 水

【4. 応急措置】

皮膚に付着した場合	直ちに多量の水で洗い流す。
-----------	---------------

眼に入った場合
直ちに十分な流水で、こすらず15分間以上洗眼し、医師の診断を受ける。この場合、清浄な微温湯が容易に得られる場合は疼痛を軽減する点で冷水洗浄よりも効果がある。

飲み込んだ場合
コップ1～2杯程度の水あるいは牛乳または生卵を飲ませる等の処置をし、医者の手当を受ける。
(専門的な処置としては、水かチオ硫酸ナトリウム(ハイポ)溶液で注意深く洗浄する。ただし、胃洗浄は、誤飲量と口腔・咽頭粘膜の損傷の有無によって判断する。)

酸と接触したために発生した塩素ガスに暴露又は吸入した場合
咳が出る程度の際は、新鮮な空気のある場所に移す。症状により毛布などにくるんで安静にさせる。眼を痛めた時は、ただちに水道水で眼を開いたまま少なくとも15分間以上洗う。処置後は医師の診断を受ける。重症の場合は、直ちに医師を呼んでその指示に従う。

【5. 火災時の措置】

消火方法
(周辺火災の場合) 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には、容器および周辺に散水して冷却する。
(着火した場合) 不燃性である。
消火剤 大量の水。

【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
回収作業などに当たる者は、保護手袋、保護眼鏡、顔面被覆のゴーグルなど必要な保護具を着用する。
環境に対する注意事項 漏洩した場合は、多量の水を用いて十分に希釈して洗い流す。また、酸で中和しようとしてはならない。
濃厚な廃液が河川等に排出されないように注意する。

【7. 取扱い及び保管上の注意】

取扱い 小分けする場合、その容器は完全に清掃されたものであり、液などが残存していないことを必ず確認する。
皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないようにする。
他の洗浄剤と混ぜて使用しない。特に酸とは絶対に混合してはならない。誤って酸と混合した時には、直ちに大量の水で洗い流すか、カセイソーダ、消石灰等のアルカリで中和する。
発生した塩素ガスが周辺に拡散する恐れがあるときは関係者に連絡するとともに、風上に避難、誘導等の措置を講ずる。
高所に使用する場合は顔面被覆のゴーグル、保護衣、保護手袋等を使用する。

保管

直射日光が当たる場所、高温となる場所をさけて保管する。
 保管はポリエチレン樹脂などの耐食性材料で製作したものを使用する。
 金属製などの腐食される容器に移し変えてはならない。
 18L以上を容器に入れる場合は、蓄圧防止用の小孔を設けた栓を使用することが望ましい。
 重金属類が容器内へ混入しないようにする。

【8. 暴露防止及び保護措置】

管理濃度 設定されていない。

許容濃度 知見なし

参考として「塩素」の許容濃度を以下に示す。

ACGIH(TLV)	TWA	0.5 ppm	1.5 mg/m ³	
	STEL	1 ppm	2.9 mg/m ³	
OSHA (PEL)	TWA	0.5 ppm	1.5 mg/m ³	(刺激性)
	STEL	1 ppm	3 mg/m ³	
日本産業衛生学会		1 ppm	2.9 mg/m ³	

TWA : 時間加重平均

STEL : 短時間暴露限界

設備対策 換気扇等を使用する。

保護具 保護眼鏡

ビニール手袋、ゴム手袋等

顔面被覆のゴーグル

【9. 物理的及び化学的性質】

外観 淡黄色透明な液体

臭い 特有な刺激臭

pH 9.70-10.70 (1%水溶液、25°C)

密度 1.074 g/cm³ (25°C)

水溶解性 水と任意の割合で溶解

引火点 なし

発火点 なし

爆発範囲 なし

【10. 安定性及び反応性】

安定性・反応性 次亜塩素酸ナトリウム溶液は不安定で分解しやすい。アルカリ性では比較的安定であるが、中性以下では極めて急激に分解反応を生じ、塩素ガスを発生する。常温でも不安定で保存中に徐々に分解して酸素を発生する。日光、特に紫外線により分解が促進され、また温度の上昇とともに分解率は増加する。
 コバルト、ニッケル、銅などの重金属及びその塩類が存在すると

	著しく分解を促進する。
	強いアルカリ性と酸化作用により、金属類、天然繊維類のほとんどのものを腐食させる。耐食材料として、チタン、陶磁器、塩化ビニル、フッ素樹脂、ポリエチレンなどが優れている。
可燃性	なし
発火性	なし
酸化性	あり
自己反応性・爆発性	なし

【11. 有害性情報】

皮膚腐食性	皮膚を侵し、放置した場合、皮膚の深部に達しやけどとなる。
目腐食性	結膜や角膜が侵され、発赤、痛みを感じ、失明する可能性がある。
刺激性（目、皮膚）	刺激性あり
急性毒性	マウス、経口 LD ₅₀ = 雄 6.8 mL/kg（有効塩素10%） 雌 5.8mL/kg（有効塩素10%） 幼児経口致死量 15～30 mL（5%液）
亜急性毒性	F-344ラットに飲料水として投与した場合、2週間の投与で0.25%以上の濃度群において、又、13週間の投与では0.2%以上で、著しい体重抑制が見られた。

【12. 環境影響情報】

分解性	水中で徐々に分解する。
魚毒性	水生生物に有毒である。 12%次亜塩素酸ナトリウムについて アメリカヤナギバエ LD ₅₀ /96時間 59 mg/L 小エビ LD ₅₀ /96時間 52 mg/L

【13. 廃棄上の注意】

原液に直接酸を加えてはならない。大量の水で希釈し、亜硫酸ナトリウム等で処理した後、酸で中和してから廃棄する。

【14. 輸送上の注意】

酸と接触すると分解して塩素ガスを放出するので、酸類との混載は避ける。
栓のあるところを上にして積載する。
分解しやすいので、遠距離輸送はなるべく避けたほうがよい。直射日光下の輸送は、温度上昇によって分解が促進されるので好ましくない。

【15. 適用法令】

労働安全衛生法第57条の2第1項の政令で定めるもの
なし
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律で定めるもの

なし

12%次亜塩素酸ナトリウムに関する情報

食品衛生法

食品添加物 施行規則第3条 健康を損なう恐れのない

化学的合成品（別表第2）

危険物船舶運送及び貯蔵規則

第3条告示別表第3 腐食性物質

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み運送 有害液体物質C類

港則法

施行規則第12条 危険物の腐食性物質

航空法

施行規則第194条 告示別表第11 腐食性物質

【16. その他】

参考文献

日本化学会編「化学防災指針7」 丸善（1980）

「1991-1992 Threshold Limit Values for Chemical Substances
in the Work Environment」ACGIH（1991）

「米国OSHA 危険有害性の周知基準-規則と危険有害性化学物質
リスト-（第4版）」JETOC（1989）

日本産業衛生学会「許容濃度の勧告」産業医学 35巻（1993）

石けん、洗剤、洗浄剤、仕上げ剤等誤飲・誤用の応急処置

財団法人日本中毒情報センター監修、日本石鹼洗剤工業会（1989）

東京連合防火協会編「危険物データブック」丸善（1988）

古川ら： 衛生試験所報告98、62（1980）

「危険物ハンドブック」ギュンター・ホンメル編、新居六朗、
シュプインガ・フェアラーク 東京株式会社（1991）

記載内容の問い合わせ先

会社名

アズワン株式会社

住所

〒550-8527 大阪市西区江戸堀2丁目1番27号

担当部門

カスタマー相談センター

電話番号

0120-700-875

FAX番号

0120-700-763

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。

また、記載事項は通常の実用を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。